

製品名: PIG-H ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab16135

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:20000-1:40000

分子量

抗原情報

遺伝子名	PIGH
別名	PIGH; Phosphatidylinositol N-acetylglucosaminyltransferase subunit H; Phosphatidylinositol-glycan biosynthesis class H protein; PIG-H
遺伝子 ID	5283.0
SwissProt ID	Q14442
免疫原	抗血清はヒト PIGH 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 137-186

背景

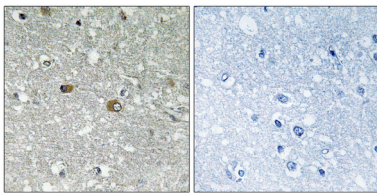
この遺伝子は、グリコシルホスファチジルイノシトール（GPI）アンカーの生合成に関与する小胞体関連タンパク質をコードしま

す。GPI アンカーは多くの血液細胞に存在する糖脂質であり、タンパク質を細胞表面に固定する役割を果たします。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、小胞体の細胞質側にあるホスファチジルイノシトール (PI) に GlcNAc を転移する GPI N-アセチルグルコサミン (GlcNAc) トランスフェラーゼのサブユニットです。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、触媒活性: UDP-N-アセチル-D-グルコサミン + 1-ホスファチジル-1D-ミオイノシトール = UDP + 6-(N-アセチル-アルファ-D-グルコサミン)-1-ホスファチジル-1D-ミオイノシトール。、機能: GPI 生合成の最初のステップである、UDP-N-アセチルグルコサミンからホスファチジルイノシトールへの N-アセチルグルコサミンの転移を触媒する複合体の一部。、オンライン情報: ホスファチジルイノシトール N-アセチルグルコサミニルトランスフェラーゼサブユニット H、経路: 糖脂質生合成;グリコシルホスファチジルイノシトールアンカー生合成。、類似性:PIGH ファミリーに属する。、サブユニット:PIGA、PIGC、PIGP、PIGQ、および DPM2 と関連する。DPM2 は活性に必須ではない。、

研究分野

グリコシルホスファチジルイノシトール (GPI) アンカー生合成

画像データ



PIGH 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。